



つばめ農園おひさま便り

44

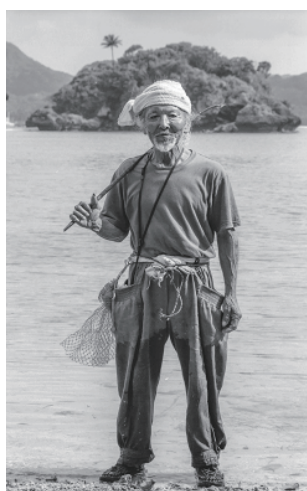
安溪貴子・安溪遊地

「西表島の文化力」

梅雨の終わりの大雨。山口県でも大きな被害がでました。被害にあわれた方にお見舞いを申し上げます。

大豆を蒔かないうちに梅雨に入り、畑に水が溜まるような大雨では、大豆は発芽してくれません。今年は、大豆のタマホマレの種子を、水田の苗用の培土の中に一日入れておくだけで発芽率が良くなるという方法を農文協の『現代農業』で読んで試してみました。結果は上々でしたが、培土の湿度が高かったせい、種子が柔らかくなりすぎ、動力式では潰れてしまうので、手押しの種まき機「ごんべえ」に切り替えるというハブニングもありました。

植えつけの済んだ田んぼと大豆畑を息子にまかせて、わたしたちは西表島を訪問しました。半世紀にわたってお世話になった、西表島の島おこし運動家にして伝承者であ



自称「西表の原住民」石垣金星さん
(1946-2022)。© 仲程長治

る石垣金星いしがきんせいさんが亡くなられて一周忌になる六月三〇日に合わせて、遺稿集を編むというのを、二月にお引き受けしたためです。お世話になったみなさんに声をかけ、金星さんが会長であった「西表をほりおこす会」として、インターネット上で作業を分担して進めました。お陰様で命日に間に合って、『西表島の文化力——金星人から地球人へのメッセージ』として、日本最南端の出版社・南山舎から出版することができました（「#島のもの屋」でご注文を！）。

裏表紙には、金星さんの言葉「文化力のある島は滅びない」を入れました。ヤマネコとマンングロープばかりがもてはやされ、まるで無人島のような扱いを受けることが多い西表島ですが、自然の恵みを大切にしてきた伝統文化があればこと、今日があるのだという、金星さんの気づきのエッセンスです。地元の新聞『#八重山毎日新聞』でも大きく紹介されましたし、ネット上の「#エシカル・ラジオ」でもインタビューを受けました。法要の翌七月一日に西表島エコツーリズムセンターで『西表島の文化力』製作秘話——金星人との五〇年を語る」というお話をさせてもらいました。

石垣金星さんは、妻の昭子さんと仲間たちとともに、一九九六年に、日本初となるエコツーリズム協会を西表島で立ち上げま

図 生物文化多様性の楽園・アンパルの干潟から見た石垣島ゴルフ場リゾート完成予想図。

©「アンパルの自然を守る会」



した。本の中で、彼は次のように語っています。エコツーリズムの根っこが、フランスで起こったエココミュゼの運動にあることを踏まえた傾聴すべき意見です。私たちが「生物文化多様性研究所」を名乗っている淵源えんげんもこのあたりにあります。フランスのエココミュゼ憲章（一九八一年）の第一条を引用しておきます。「エココミュゼとは、ある地域で、地域住民の参加により、環境とそこで発展してきた生活様式を代表する自然と文化の遺産群の調査・保存・展示・向上の機能を恒常的に実施する文化施設である。」

ネイチャー
ツーリズムが
エコツーリス
ムだと思っ
ている人もい
ますが、本当
は自分たちで
分たちの地域
をつくって
いく運動が、
またまエコツ
ーリズムと呼
ばれるだけ
でしょう。エ
コツーリス

は地域の自然と、その自然から生まれた文化をつくりあげていく、いわば文化運動なんです。その文化は自然を活用し、工芸や芸能であつたりするけれど、それを自慢する行動を総称してエコツーリズムというんです（『西表島の文化力』六八ページ）。

石垣島の大規模リゾート計画

そして、八日間の旅の終わりの七月三日に「#カムムリワシの里と森を守る会」の主催で、石垣島のみなさんにお話をする機会をいただきました。題して「里山の自然と開発問題」おはまのふもと。大濱信泉記念館での講演会では、石垣島の北西岸にアンパルの干潟という、ラムサール条約の指定湿地と、そこに隣接する農地や市民の公園を含む長さ二キロ、幅一キロにもおよぶ広大な土地を、ゴルフ場付きのリゾートにするという開発計画をなんとか止めたいという市民のみなさんが集まりました。

自然を守る運動と文化を守ることはひとつだという金星さんの生き方を伝えようと、遊地はオカリナを演奏しました。曲目は、石垣島のアーティストとカムムリワシに敬意を表し「えんどうの花」しんげん「島人ぬ宝」しまいぬたから「コンドルは飛んでいく」など。そして、今回と同じ開発業者のユニマツト社が西表島の

聖地である浦内川の河口に建設したリゾートへの石垣金星さんたちの反対運動を踏まえて、その行動と意思を引き継ぐには、と問いかけました。そのあと、安溪貴子が、中国電力の上関原子力発電所計画に抗して、四〇年以上も闘い続けている祝島の人の生き方や、日本生態学会を始めとする研究者グループが原発予定地のすばらしい生物多様性を一〇年にわたって調べた『奇跡の海』（南方新社、二〇一〇年）と、現在までつづく「上関の自然を守る会」との連携を紹介しました。

七月三日と四日にわたって、現場を案内していただき、生物と文化の両方にわたるリゾート開発の問題点を、実際に現場で教えていただく、という貴重な経験をさせていただくことができました。梅雨があがった猛暑の中でしたが、私どもは、農作業用の空調服のおかげで、なんとか倒れずにすみました。（つづく）

（あんけいたかこ・あんけいゆうじ）

 a@ankei.jp
 http://ankei.jp

QRコードにスマホをかざすと、サイトが見られます。文中の#マークはパソコン検索用です。

